

地域学校  
協働活動

# 休日OK ほかごOK 授業OK ちがくきょうどう通信

2024年  
12月発行

こんにちは。「ちがくきょうどう通信」です！！早いもので今年も残すところあとわずかとなりました。地域の皆様の協力のもと、今年もたくさん子どもたちに様々な活動を提供することができました。ありがとうございます。今号は活動事例をお届けします。是非、ご覧ください。

## 事例紹介 前半



屯田南小学校



### ※※放課後の「昔遊び体験」※※



低学年の保護者懇談の時間に、児童の預かりをかねて実施した昔遊び体験。同校が地域学校協働本部を立ち上げてから、毎年、継続して実施している活動です。

運営は、屯田地区子ども会育成連合会の皆さんを中心に、PTAの協力に加え、昨年は同校OBの大学生や中学生、そして今年は6年生や卒業生の保護者（元PTA）がボランティアとして参加していました。



当日、会場の体育館には、スライムづくり、ストラックアウト、射的やけん玉遊びなどの複数のブースが設けられていました。それぞれのブースでは、ボランティアとして参加した地域の皆さんや、6年生が教え役となり、当日はたくさんの児童が集まるなか、異学年交流や地域交流が図られていました。年々運営側の参加者が増えるこの活動活動を通じて、地域のつながりの広がりがみられています。

さて、本事業とは別の話題にはなりますが、同校では、地域との様々なつながりを通して、学校の協力者を増やすなど、日ごろから地域との関わりを大切にしています。そして、今回、「休み時間見守り隊」という取組が教育委員会の主催する令和6年度働き方改革表彰を受賞しました！！おめでとうございます！！

こうした取組の継続が、今後もより一層、地域に根ざした学校と地域の連携・協働の体制づくりにつながることを願っています。



あいの里東小学校



### ※※地域と行う「防災訓練」※※



学校と地域が一体となって、防災意識を高めることを目的に行われた活動です。災害時に地域が自主的に避難所を運営できるよう、町内会を中心に企画が進められ、事前の打合せには校長も参加するなど、より良い内容になるよう共に考え実施されました。

当日は、町内会の会長による講義や地域の方の実際の体験談についての講演があり、その後行われた校内見学では、教頭の説明を聞きながら、「ここは食堂で使えそう。」「3階は感染症罹患者のフロアとしてどうだろう。」などといった地域住民同士の確認が行われていました。最後は、北海道医療大学の学生が指導役となり、AED操作などを参加者全員が体験しました。

今回、地域の方々が「子どもたちは地域の宝」と話していたのが印象的でした。「防災」はどこの学校においても地域と共通の目標となりえる課題です。こうした顔を合わせての交流が、地域と学校の協働・連携を進める上でとても大切なことだと改めて感じる活動となりました。

事例紹介  
後半

## 福住小学校



## \*\* 農業体験学習

## 「私も地球号クルー～命について考える～」\*\*

5年生総合的な学習の時間を活用し、今年の5月からスタートした農業体験学習。学校で教材園として利用している空き地を活用し、サツマイモやじゃがいも、きゅうり等の作物を育て収穫体験を行いました。また、一連の学習の集大成として、活動にご協力いただいた関係団体や地域の方を招き、児童による発表会と、ゲストティーチャー（JT生命誌研究館名誉館長：中村桂子さん）による特別講演が行われました。

児童の発表では、スーパーで並ぶような身近な作物が、実際に育ててみると普段あまり目にしないような形に育つ様を見て、とても驚いたことを話していました。また、収穫まで体験したことで、農家の大変さや、生き物を育てる楽しさを感じたとのことでした。

この活動は、当初は地域の農地を借りて行う予定でしたが、それが難しくなり、学校が同校の地域学校協働活動推進員に相談したところ、「教材園で利用している空き地を活用してはどうか。やるからには農業体験と合わせて生き物や命のつながりについて学ぶ機会としてみては？」との提案があり、併せて協力いただける関係団体の紹介を得て実現しました。推進員の方は今回の活動を振り返って、「はじめはとてもささいなことから始まった活動でした。ささいなことを学校と地域が一緒になって取り組むこと、それが子どもたちの将来にわたる学びにつながっていくのではないのでしょうか。」と話をされていました。



## 手稲中央小学校



## \*\* 福祉の学習「みんなにやさしいまち手稲」\*\*



5年生総合的な学習の時間を活用して行われた福祉の学習の集大成として、福祉のまち推進センターによる「福まちサロン」との交流学習会を開催しました。5年生の3クラスがそれぞれ自分たちで企画したよさこいや、〇×クイズ、じゃんけん列車などをサロンの参加者とともにやり交流を図りました。活動後は、サロンの参加者と児童でメッセージカードの交流も予定されているとのことでした。

同校では、以前から施設訪問等で高齢者との交流の機会を設けていましたが、コロナ禍で残念ながら中断していました。そこで、今年に入り、再開を模索していた学校が、同校の地域学校協働活動推進員に相談したことで、実現することができました。

今回は、定期開催している福まちサロンの活動との連携であったため、当日の運営は福祉のまち推進センターが中心となって進め、推進員は学校との事前調整をコーディネートするなど、全体として大きな負担が新たに発生することなく、実施することができました。

福まちサロンを運営する職員も、子どもとの交流活動を歓迎しており、既存の取組と推進員の協力により、学校と地域のニーズに応えた素晴らしい活動となりました。

